

『カクキューの八丁味噌を愛した著名人』 ～ 川崎 小虎 (かわさき しょうこ) ～

1886年(明治19年)～1977年(昭和52年)
岐阜県出身。日本画家。

明治画壇の大家と知られた祖父の川崎千虎から大和絵を学び、千虎が佐賀県有田陶芸学校校長になると、その専科で絵画と図案を学びました。千虎没後は、千虎門下で武者絵などで近代日本歴史画の父と言われた小堀鞆音に師事しました。

東京美術学校教授、武蔵野美術大学名誉教授を勤め、戦前・戦後を通じ文展、帝展、日展で活躍しました。

川崎小虎の長女は弟子の一人であった日本画家・東山魁夷の妻となり、魁夷の作風にも小虎は影響を与えました。

当社史料室には、昭和時代にお客様の御用命により川崎小虎に味噌をお送りした記録をはじめ、川崎小虎の作品が記載された名古屋松坂屋美術部や愛知社からの各種展覧会の案内状が残っています。

そのほか、魁夷と深い親交のあった川端康成に味噌をお送りした記録も残っています。川端康成について詳しくは「カクキューの八丁味噌を愛した著名人」の「川端康成」をご覧ください。

月日	荷受人住所	氏名	数量	品別	重量	備考
12/10	東京市外杉並町	川崎小虎	1箱	味噌	10kg	伊豆半旗



10 東京市外杉並町 川崎小虎 10

川崎小虎に味噌を発送した記録(昭和5年12月10日)
〔昭和5～6年の「荷物発送簿」より〕

肅啓 時下春暖の候愈々御清祥大慶至極に存候 陳者本
 會第十一回展覽會を左記の通り會催致候に就ては會開初
 日を以て招待日と相定め申候間萬障御繰合せの上御家族
 御同伴御清覽の榮を賜り度此段御案内申上候 敬 具

當日御差支の節は開期中御隨意に御來觀被下度候尙其節には此狀封筒のまゝ御持參願上候

會場 名古屋市鶴舞公園内美術館
 期日 五月四日ヨリ全月十日迄

昭和九年四月 日 愛 知 社

愛知社同人

服部有恆 藤井達吉
 富田范溪 小堀四郎
 太田一彩 朝蔭其明
 渡邊正太郎 佐分真
 川崎小虎 水野義正
 加藤靜兒 清水有聲
 加藤顯清 毛利教武
 長野埜志 森村稻門
 山本 鼎 森田沙夷

殿

愛知社からの展覽会の案内状 (昭和9年4月)

拜啓
 陳者來る六月七日より九日まで名古屋市
 榮町丸善支店樓上に於て愛知社同人近作展
 覽會を開催可致今回は全部豫約により製作し
 來れる作品のみにて遺憾ながら御賣約には應
 じ兼ね候へ共其点惡しからず御了承の上何卒
 萬障御繰合せの上ゆるくと御來觀の榮を得
 度奉懇願候 敬具

昭和十三年六月三日

愛 知 社

愛知社同人

(イロハ順)

日本書部 服部有恆 太田一彩
 川崎小虎 清水有聲
 森田沙夷 森村稻門
 西洋書部 渡邊正太郎 加藤靜兒
 山本 鼎 水野義正
 彫塑部 加藤顯清 朝蔭其明
 毛利教武
 工藝部 長野埜志

愛知社からの展覽会の案内状 (昭和13年6月3日)